

英語コーパス学会第29回大会

ワークショップ《日本人英語学習者作文コーパス JEFLL：概要と検索ツールの紹介》 10:15～11:45 (9:45 受付開始)
会場：情報メディア館 JM202
講師：投野由紀夫(東京外国語大学)・星野守(小学館コミュニケーション編集局)
定員：先着60名 参加費：会員無料・非会員1,000円(申し込みは電子メールで事務局まで)

日時 2007年4月28日(土)
会場 同志社大学 京田辺キャンパス 恵道館2F(KD202)
(〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 <http://www.doshisha.ac.jp/>)
受付開始 12:00(恵道館2F)
開会 13:00

1. 会長挨拶
2. 開催挨拶
3. 総会
4. 事務局からの連絡

司会 赤野 一郎(京都外国語大学)
中村 純作(立命館大学)
松久 玲子(同志社大学言語文化教育研究センター所長)

<研究発表第1室(KD202)>

研究発表1 13:40～14:10

Corpus of Professional English からの科学技術分野特徴語の抽出と教育用語彙表の作成

司会 金子 朝子(昭和女子大学)

中條 清美(日本大学)
内山 将夫(情報通信研究機構)
星野 守(小学館コミュニケーション)
西垣 知佳子(千葉大学)

研究発表2 14:15～14:45

英語学習者コーパスにおける作文テーマの影響：英語母語話者コーパスとの比較分析

杉浦 正利(名古屋大学)
阪上 辰也(名古屋大学大学院生)
成田 真澄(東京国際大学)

<研究発表第2室(KD203)>

研究発表1 13:40～14:10

had better の用法：コーパスを用いての should と ought to との比較を通して

司会 橋本 喜代太(大阪府立大学)

久井田 直之(日本大学非常勤講師)

研究発表2 14:15～14:45

コーパスを用いた動詞不変化詞構文のより詳細な記述の試み：清掃行為に関わる句動詞を例に

大谷 直輝(京都大学大学院生)

<休憩 14:45～15:05>

シンポジウム 15:05～17:25

《英語学習者コーパスの新展開：会話(NICT-JLE) vs 作文(JEFLL)コーパスの比較と分析》

発表者 投野 由紀夫(東京外国語大学)
上村 崇(元明海大学大学院生)
小林 雄一郎(法政大学非常勤講師)
鈴木 理恵(法政大学大学院生)
早川 宏美(日々輝学園高等学校)
三浦 愛香(東京外国語大学大学院研究生)
山田 洋文(明法中学・高等学校)

閉会の辞

西納 春雄(同志社大学)

《懇親会 時間：17:45～19:45 場所：紫苑館2F 教職員レストラン 会費：4,000円》

英語コーパス学会 (Japan Association for English Corpus Studies)

会長 中村純作 事務局 615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 赤野一郎研究室

TEL: 075-322-6103 E-mail: i_akano@kufs.ac.jp 郵便振替口座 00940-5-250586

URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html>

- ◆ 大会当日、入会受付もいたしますので、お問い合わせの上ご参加下さい(年会費 一般5,000円 学生3,000円)。
- ◆ 「当日会員」としての参加も受け付けております(1,000円)。

英語コーパス学会

第 29 回大会資料

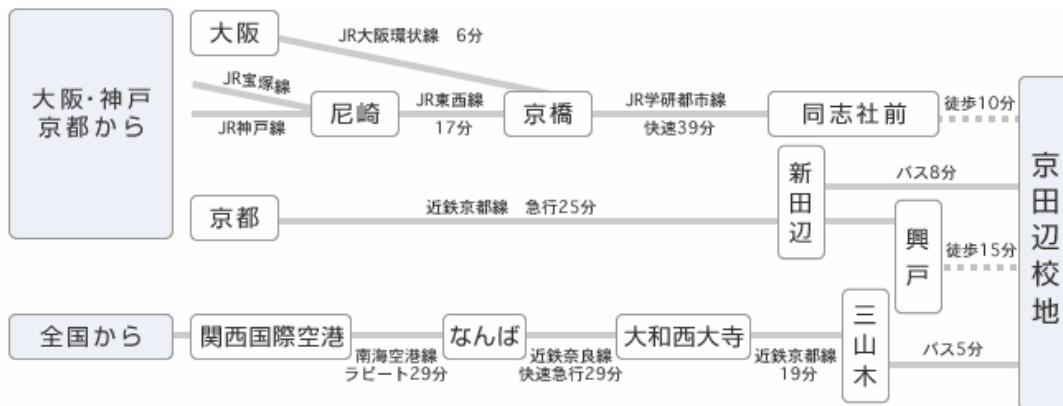
日時: 2007 年 4 月 28 日(土)午後 1 時より(正午受付開始)

会場: 同志社大学京田辺校地 恵道館 2 階

(<http://www.doshisha.ac.jp/>)

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3

《会場へのアクセス》



- 近鉄「興戸」から徒歩 15 分
- 近鉄「三山木」からバス「デイヴィス記念館」行きで「同志社正門」下車(5分)
- 近鉄「新田辺」からバス「デイヴィス記念館」行きまたは「ウェルサンピア京都」行きで「同志社大学正門」下車(8分)
- JR「同志社前」から徒歩 10 分
- 新田辺駅、三山木駅からのバス時刻は以下の URL を参照してください。
http://www.doshisha.ac.jp/access/bus_tujoyo.html

第 29 回大会プログラム

ワークショップ《日本人英語学習者作文コーパス JEFLL : 概要と検索ツールの紹介》
会場：情報メディア館 JM202 時間：10:15～11:45 (9:45 受付開始)
講師：投野由紀夫(東京外国語大学)・星野守(小学館コミュニケーション編集局)
定員：先着 60 名 参加費：会員無料・非会員 1,000 円(申し込みは電子メールで事務局まで)

日 時 2007 年 4 月 28 日(土)
会 場 同志社大学 京田辺キャンパス 恵道館 2F(KD202)
受付開始 12:00(恵道館 2F)
開 会 13:00

1. 会長挨拶
2. 開催校挨拶

司 会 赤野 一郎(京都外国語大学)
中村 純作(立命館大学)
松久 玲子(同志社大学言語文化教育研究
センター所長)

3. 総会
4. 事務局からの連絡

<研究発表第 1 室(KD202)>

研究発表 1 13:40～14:10

Corpus of Professional English からの科学技術分野特徴語の抽出と教育用語彙表の作成

中條 清美(日本大学)
内山 将夫(情報通信研究機構)
星野 守(小学館コミュニケーション)
西垣 知佳子(千葉大学)

司 会 金子 朝子(昭和女子大学)

研究発表 2 14:15～14:45

英語学習者コーパスにおける作文テーマの影響：英語母語話者コーパスとの比較分析

杉浦 正利(名古屋大学)
阪上 辰也(名古屋大学大学院生)
成田 真澄(東京国際大学)

<研究発表第 2 室(KD203)>

研究発表 1 13:40～14:10

had better の用法：コーパスを用いての should と ought to との比較を通して

久井田 直之(日本大学非常勤講師)

研究発表 2 14:15～14:45

コーパスを用いた動詞不変化詞構文のより詳細な記述の試み：清掃行為に関わる句動詞を例に

大谷 直輝(京都大学大学院生)

<休 憩 14:45～15:05>

シンポジウム 15:05～17:25

《英語学習者コーパスの新展開：会話 (NICT-JLE) vs. 作文(JEFLL)コーパスの比較と分析》

発表者 投野 由紀夫(東京外国語大学)
上村 崇(元明海大学大学院生)
小林 雄一郎(法政大学非常勤講師)
鈴木 理恵(法政大学大学院生)
早川 宏美(日々輝学園高等学校)
三浦 愛香(東京外国語大学大学院研究生)
山田 洋文(明法中学・高等学校)

閉会の辞

西納 春雄(同志社大学)

《懇親会 時間：17:45～19:45 場所：紫苑館 2F 教職員レストラン 会費：4,000 円》

【ワークショップ】

JEFLL Corpus の公開と SCN 版検索ソフトの利用法

投野 由紀夫(東京外国語大学)

星野 守(小学館コミュニケーション編集局)

JEFLL Corpus は中学・高校の英語学習者のべ1万人以上の自由英作文を収集した学習者コーパスである。このワークショップでは JEFLL Corpus のデザイン・スキーム、実際のデータ収集方法とコーパス構築のプロセスを紹介すると共に、2007年春に小学館コーパス・ネットワーク(SCN)上で無料コンテンツとして公開される予定の web インタフェースを用いながら、JEFLL Corpus の検索の実際を紹介する。

- 1) JEFLL の概要
- 2) SCN へのログイン
- 3) 語句検索
- 4) 基本語検索
- 5) コロケーション検索
- 6) 学習者データ特有の検索項目(英語にできない日本語など)
- 7) サブコーパスの設定
- 8) その他

【研究発表第1室】

【研究発表1】

Corpus of Professional English からの科学技術分野特徴語の抽出と教育用語彙表の作成

中條 清美(日本大学)

内山 将夫(情報通信研究機構)

星野 守(小学館コミュニケーション)

西垣 知佳子(千葉大学)

科学技術分野のような特定分野では英語が事実上の世界共通語となっている。そのため専門分野における語彙指導は英語教育において重要な課題である。専門分野の教育用語彙選定においては、当該分野に関する高度な知識が要求され、また学習者の習熟度レベルに合致した語彙の配列が必要とされる。しかし、多くの場合、英語教師は当該専門分野の知識を有さず、当該分野の専門家は英語教育用語彙選定の知見を持たないため、専門語彙の選定作業は困難なものとなっている。

このような現状に鑑みて、本研究では簡便かつ客観的な方法で、習熟度レベル別に、精度良く、専門分野に特徴的な語彙を抽出するツールとして、1) 複数の統計指標を用いる方法、2) 単語散布図(Wordplot)を利用して単語の専門度を可視化して語彙を抽出する方法の2種を用いて、科学技術分野に特徴的な語(特徴語)の抽出を試みた。本発表では、これら2種類の手法を利用した教育用専門語彙表の作成過程とその抽出結果の有効性を報告する。

今回我々は、学術コンソーシアム PERC (Professional English Research Consortium)が構築した、22分野の科学技術学術雑誌のテキストで構成される、Corpus of Professional English (CPE)の2,000万語から専門語彙を抽出した。その結果、たとえば Wordplot を用いた場合、algorithm、coefficient、simulation、activation、substrate、oxidation、thermal といった科学技術分野での出現頻度が高いにも関わらず、一般的な出現頻度順語彙リストでは頻度が低いために選定されにくい特徴語を、目で見て容易に同定できることが判明した。

【研究発表2】

英語学習者コーパスにおける作文テーマの影響：英語母語話者コーパスとの比較分析

杉浦 正利(名古屋大学)

阪上 辰也(名古屋大学大学院生)

成田 真澄(東京国際大学)

本研究は、英語学習者コーパスの構築において、コーパスデータの収集の際に設定する作文テーマがどのようにコーパスデータに影響を与えるかを、英語母語話者のコーパスデータとの比較分析を通して、明らかにすることを目的としている。

作文を書く場合の成績は、作文のテーマの内容が違っても差はないことや(Carlson et al. 1985; Spaan 1993)、同じテーマを指示文で提示しても疑問文で提示しても差がないことがわかっている(Brossell & Ash 1984)。しかし、統語的特徴や語彙的特徴を見ると、作文のタイプ(比較か描写か)により、学習者では総単語数・内容語の比率・代名詞の比率に有意な差が出る一方で平均文長・短文比率・複文比率・平均単語長には差が出ないが、英語母語話者では平均単語長に有意な差が出るという報告もある(Reid 1990)。

現在構築中の、英語学習者及び英語母語話者コーパス(各 200 名分の英作文、辞書などの参考書を使用せず1時間の時間制限あり)データから、二つのテーマ “School Education” と “Sports” を取り上げ、それぞれの作文における総単語数・異なり語数・文数・平均単語長・平均文長・Type/Token 率を変数とし、判別分析を行ない、こうした個々の作文の持つ語彙的特徴により、二つのテーマの違いを判別できるかどうか、また、判別できるとしたらどの特徴が判別に寄与しているかを検証した。

学習者のデータについては、平均単語長と Type/Token 率が有意であり、この二つの特徴により 78.8%が判別できることがわかった。母語話者の場合は、平均単語長のみが有意であったが、これにより、83.8%が判別できることがわかった。学習者の平均単語長は “School Education” が 4.7 文字で “Sports” が 4.3 文字であった。母語話者はそれぞれ 5.6 文字と 4.6 文字であり、母語話者のほうが、平均単語長に、より大きな差があり、また、その差が大きいため、判別率も高くなっているといえる。

【研究発表第2室】

【研究発表1】

had better の用法—コーパスを用いての *should* と *ought to* との比較を通して

久井田 直之(日本大学非常勤講師)

近年、コーパスの発達によって、コーパスを用いた文法研究が多く見られるようになった。しかしながら、意味的な重なりや類似があると文法書で紹介されている助動詞のコーパスを用いた比較研究は十分になされているとは言い難い。本発表の目的は、Bank of English を用いて、*had better* に焦点を当て、*should* と *ought to* とのコーパスを用いた比較を通して、*had better* の使用実態を調査することである。助動詞の意味の決定において、コロケーションやフレージオロジーが重要であるという Hunston (2000) の考えを、コーパスを用いた助動詞の比較研究に応用した一例として提案する。

どのような主語や動詞とその助動詞が共起するかを調べるコロケーション調査と、その結果に基づいてのコンコーダンスラインの検証で、固定したフレーズ(fixed phrases)を見つけることができる。そして、ある固定したフレーズにおいては、フレーズを構成する語の意味の総和以上の意味をそのフレーズが持ち、特有のフレージオロジーであることを確認できるということを示す。

【研究発表2】

コーパスを用いた動詞不変化詞構文のより詳細な記述の試み： 清掃行為に関わる句動詞を例に

大谷 直輝(京都大学大学院生)

本発表では統計学的手法を用いて清掃行為に関わる句動詞(e.g. *brush back, mop up, wipe out*)の統語的・意味的特性を考察する。具体的には、*BNC* で観察された5種類の清掃行為を表す動詞(*brush, wipe, mop, sweep, clean*)を含む句動詞の全例を分析対象とし、以下の3種類の調査を行う。また、本調査で収集したデータを分析した上で、構文理論の観点から考察を加える。

調査1では、*KWIC* 検索を用い、*BNC* から清掃行為に関わる全句動詞を取り出し、取り出した句動詞を *VPO* 型(*I put off the meeting*)と *VOP* 型(*I put the meeting off*)に分けて頻度を集計した。調査2では、*Collostructional Analysis* (*Stefanowitsch and Gries 2004*)における *Collostructional Strength* (=フィッシャー検定)を使用し、動詞と不変化詞の結びつきの強さを測定した。調査3では、動詞不変化詞構文に後続する目的語の中で、頻度が2回以上である名詞をリスト化した。

3種類の調査の結果、以下の3点が明らかになった。第一に、句動詞の二文型(*VPO* 型・*VOP* 型)は動詞よりむしろ不変化詞による整理が容易である(*up, out* は *VPO* 型、*off* は *VOP* 型と共起する傾向にある)。第二に、目的語は、*up* と *off* では除去物が多く(*mop up, wipe off*)、*down* では清掃場所のみをとり(*brush down, wipe down, sweep down*)、*out* では除去物・清掃場所が共に観察される。第三に、意味拡張において、目的語が除去物の時は、駆除など負のイメージ(*sweep off*)であるのに対し、目的語が清掃場所の時は正のイメージ(*brush up, clean out*)で拡張する。

以上の調査の結果、句動詞における、1) 動詞と共起する不変化詞の多様性、2) 二文型の頻度、3) 目的語の種類、4) 句動詞の意味(字義的・メタファー)が明らかとなった。

【シンポジウム】

『英語学習者コーパスの新展開：会話(NICT JLE) vs. 作文(JEFL)コーパスの比較と分析』

司会 投野 由紀夫(東京外国語大学)

本シンポジウムでは、日本人英語学習者コーパスとして現在最大規模の2つのコーパス(*JEFL Corpus* と *NICT JLE Corpus*)を用いた分析の具体例を紹介しながら、会話・作文コーパスの第2言語習得研究や外国語教育への貢献の可能性について考えてみたい。

JEFL/NICT JLE の概要および学習者コーパス研究の意義

投野 由紀夫(東京外国語大学)

この春に公開予定の約1万件の中高生の英作文コーパス、*JEFL Corpus* の概要および1,200名以上の英会話インタビュー・テスト・データをコーパス化した *NICT JLE Corpus* の概要を紹介。さらに学習者コーパス研究の世界的潮流と、中間言語分析の観点から見た学習者コーパス研究の意義について概説する。

英語学習段階と使用語彙・品詞の特徴

投野 由紀夫(東京外国語大学)

上村 崇(元明海大学大学院生)

まずコーパス全体の概要を把握するために、*JEFL Corpus*、*NICT JLE Corpus* に関して、単語および品詞の使用頻度を *n-gram* 統計を参考にしながら考察する。作文 vs. 会話、英語力レベル別の使用

傾向を見ながら、それぞれのコーパス・データの特徴、データ収集方法によるコーパス・データ取り扱ひ上の注意すべき点、それらを考慮した上で見えてくる習得上の興味深い特徴などを総論的に述べたい。

英語学習段階と基本動詞の意味・構造発達：動詞 get に着目して

鈴木 理恵(法政大学大学院生)

先行研究では日本語母語話者の英語の発話において、学習者の習熟度が上がっても動詞の語彙選択エラーが多いことが NICT JLE Corpus の分析で判明している(鈴木 2005)。本発表では、学習者コーパスにおける習得レベル別の基本動詞の詳細な使用状況を調査した。

調査対象の動詞として今回は get を選択した。Get は Biber (1999)、Peters (2004)、Swan (2005) などでもその多義性や文法構造複雑性で習得段階別の特徴が見やすい動詞の 1 つだからである。Get の用例を JEFLL、NICT JLE の両コーパスから学年・習得レベル別に抽出し、それぞれの (1) 動詞構文別、(2) 意味・用法別の使用状況を調査した。これらを overuse、underuse、misuse の観点から分類することで、どのような構文が学習者レベルの弁別に役立つか、またどのような構文あるいは用法が学習者にとって使用困難か、といった点を明らかにしたい。

英語学習段階と名詞の内部構造発達

三浦 愛香(東京外国語大学大学院研究生)

本研究では、日本人英語学習者の名詞句の習得について、JEFLL Corpus と NICT JLE Corpus を活用して、書き言葉と話し言葉の発信スキル別及び段階別に検証を試みる。

名詞句は、Premodification (前置修飾) や Postmodification (後置修飾) により構造も複雑化するだけでなく、コーパスの中でも内容語として最も高く頻出する構成素の一つである。一般的に前置修飾のタイプの名詞句が多い日本語を母語とする英語学習者にとっては、より発信情報を詳細かつ充実させるためには、日本語の語順とは切り離して名詞句を組み立てる能力が問われる。名詞句の頻度、構造、大きさを観察することによって、発達段階を示す指標となる現象に着目、かつ書き言葉及び話し言葉における発達推移を比較する。

名詞句の典型的な構造は、前置修飾句 (premodifier=PRM)、名詞 (head)、後置修飾句 (postmodifier=POM) からなり、分析のための詳細なカテゴリーを設定した(詳細は発表で述べる)。

本研究では、以下の 3 点に絞って観察を試みる。

1. レベルによる名詞(句)の頻度率の推移
初級者ほど token に対して名詞句の頻度率が高く、特に coordination の構造パターンが多い。
2. 発達指標の決め手となると思われる名詞句構造
名詞句構造パターンは、レベルによって異なる。書き言葉と話し言葉においてその発達推移を比較する。
3. 統計分析
クラスター分析やコレスポンス分析をかけることによって、ジャンル別、習得別、修飾パターン別、構造パターン別にどのような違いと共通点が見られるかを包括的に検証する。

日本人英語学習者コーパスに見る metadiscourse markers の使用傾向

小林 雄一郎(法政大学非常勤講師)

山田 洋文(明法中学・高等学校)

英語教育では、学習者の実践的コミュニケーション能力の育成を図ることが求められているが、円滑で効果的なコミュニケーションをするためには、「何を」伝えるかだけでなく、それを「いかに」

伝えるかが必要不可欠である。その意味で、学習者言語におけるディスコース構造を体系的に記述し、その発達過程を明らかにすることは重要であろう。しかしながら、計算機によるディスコース分析は、節の境界を越えた言語特性に焦点を当てるため、語彙や文法項目の分析と比べて難しいとされてきた。

本発表は、Metadiscourse Markers (MDM)の観点から、学習者のディスコース構造に光を当てるものである。具体的には、Hyland List (e.g. Hyland 2005)の枠組みに基づいて、日本人英語学習者コーパスである JEFLL Corpus と NICT JLE Corpus に MDM のタグを付与し、その使用傾向と分布を調査する。

一般的に、語彙や文法項目の数や種類は、学習者の習熟度が上がるにつれて豊富になっていく。だが、MDM の中には、習熟度が上がるにつれて頻度が減少していく項目や、書き言葉と話し言葉で発達過程が大きく異なる項目が存在する。それらの点については、実際の例文や個々の単語を詳細に見ることで、その理由を考察したい。

英語習得プロセスの記述と学習者コーパスの持つ可能性

投野 由紀夫(東京外国語大学)

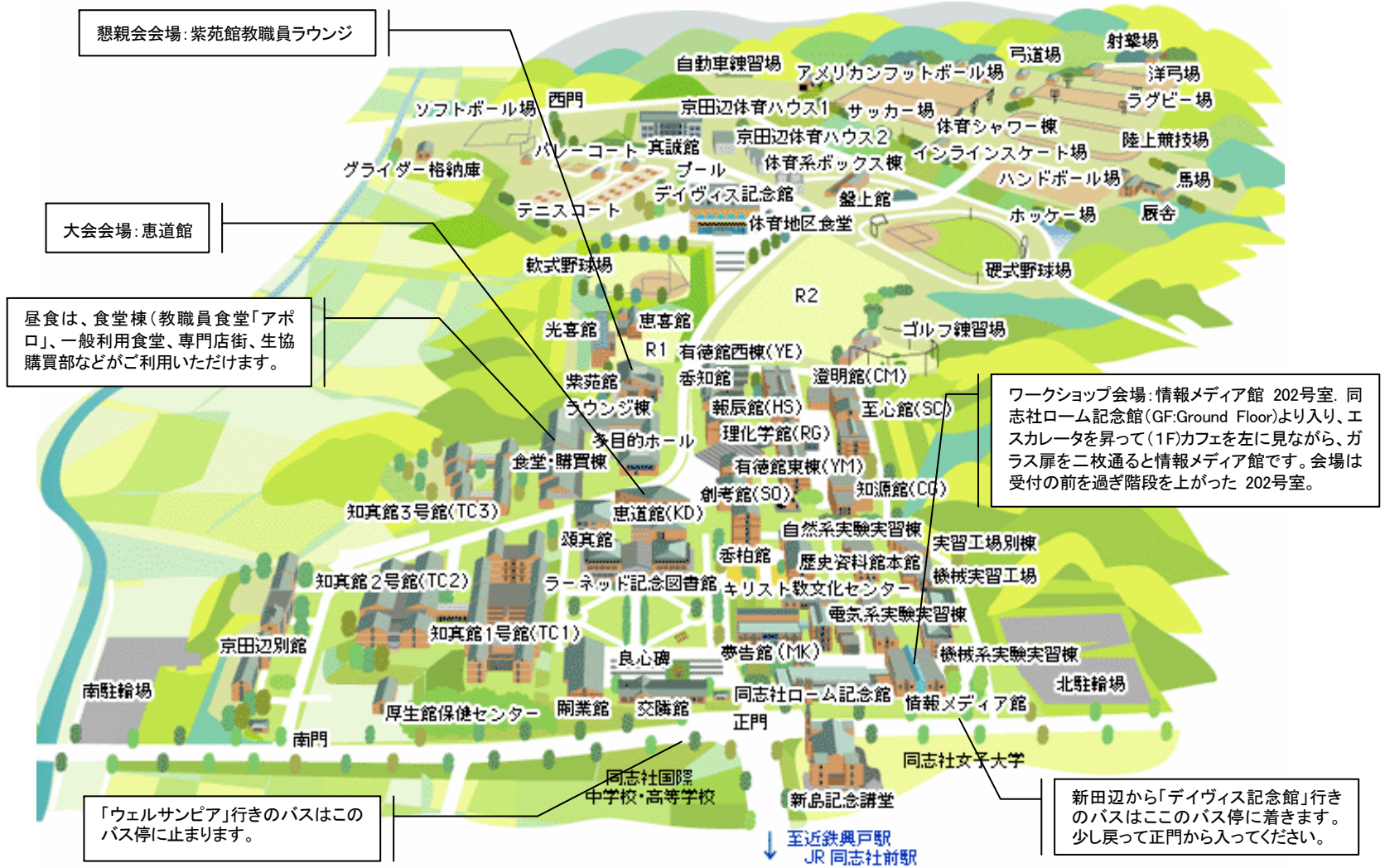
個別の調査結果を受けて、一定規模の話し言葉と書き言葉の学習者コーパスが両方そろったことでどのような研究の可能性が拓けてくるか、全体的な考察を行いたい。特に外国語教育の分野では到達度指標として世界的に注目を集めているものとして Common European Framework of Reference (CEFR)があるが、CEFR の到達指標とそこに記述されている語彙文法項目については、大規模な学習者データなどによって個別の外国語教育環境ごとの検証がなされる必要がある。到達度指標作成と学習者コーパスの検証結果の融合を有機的に行う方法を具体的に提示しながら、将来の日本における英語教育指標の明確化に学習者コーパスが大きな貢献をすることを論じたい。

《大会参加者へのご案内》

- 自家用車でのご来場はできません。
- ワークショップの受付は「情報メディア館」2階 JM202 教室で午前9時45分から行います。
- 大会の受付は「恵道館」2階 202 教室前で正午から行います。
- 昼食については、食堂・購買棟(教職員食堂「アポロ」、一般利用食堂、専門店街など)が利用できます。
- 校地内は分煙措置がとられています。指定場所での喫煙にご協力ください。
- 会員でない方も、「当日会員」として参加していただけます(1,000円)。

2007年3月1日	発行
編集・発行	英語コーパス学会
代表者	中村 純作
事務局	〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 英米語学科 赤野一郎研究室内
	TEL: 075-322-6103 FAX: 075-322-6246
	E-mail: i_akano@kufs.ac.jp
	URL: http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html

キャンパスマップ



懇親会会場: 紫苑館教職員ラウンジ

大会会場: 恵道館

昼食は、食堂棟(教職員食堂「アポロ」、一般利用食堂、専門店街、生協購買部などをご利用いただけます。

ワークショップ会場: 情報メディア館 202号室。同志社ローム記念館(GF:Ground Floor)より入り、エスカレータを昇って(1F)カフェを左に見ながら、ガラス扉を二枚通ると情報メディア館です。会場は受付の前を過ぎ階段を上った 202号室。

「ウェルサンピア」行きのバスはこのバス停に止まります。

新田辺から「デイヴィス記念館」行きのバスはこのバス停に着きます。少し戻って正門から入ってください。

↓ 至近鉄興戸駅
JR 同志社前駅